

いわき市文化政策ビジョン ヒアリング内容 (文化芸術の担い手)

実施日時	10月20日 (AM10:00~11:30)	10月26日 (PM3:00~4:30)	11月19日 (AM11:00~12:30)	1月7日 (AM10:00~11:30)
対象委員	A 氏	B 氏	C 氏	D 氏
Q1. 文化芸術が市民生活において求められる役割を果たすために必要とされる具体的な取組は何だと思いますか？	<ul style="list-style-type: none"> ◆マネジメント人材の育成 (領域が多様になってきているので、アートと各分野を繋げる人材)、専門家をちゃんと使う ◆市外・全国からマネジメント人材が集える仕組み (アーツカウンシル機能)、仕事として成り立つような仕組み (謝礼がやすい) ◆利権構造を作ってはいけない、世代交代 (新陳代謝、流動性) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆個別に活動しているプレイヤー、作家はいっぱいいるので、掘り起し、可視化する (いわきのアーティストのリストを作成) ⇒アーティストの人材バンク⇒ポータルサイト・WEBサイトで情報を発信する⇒市の文化芸術が一気に動き出す 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちが、“本物”の文化芸術に触れる機会を多くする ◆おでかけアリオスはいい取組みだが、アーティストに偏りがあるように思う (学校側に受け入れられやす分野だけでなく、例えばDJとかでもいいし、もっと様々な分野のアーティストでWSをするべき) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆人間らしい生活をするためには必要 (衣食住以外) ◆震災時は特に支えになった (子どもの弾くピアノ) ◆無駄、余白が心の余裕につながる ⇒それがあるから活動が続けられる (大人になると削りたくなる)
Q2. 文化芸術が市民生活において求められる役割を果たすために、行政や各種団体等の文化芸術関係者に対して望むこと、期待することは何ですか？	<ul style="list-style-type: none"> ◆現場と行政を繋ぐ橋・仕組みづくり ◆事業施行における柔軟な仕組みづくりを支援できる仕組みづくり ◆市民の熱量を起こしやすい環境づくり⇒行政がどうできるか 	<ul style="list-style-type: none"> ◆情報がとりまとまっていない、情報発信が悪い⇒情報発信の仕組みづくり ◆各地域にアーティストは多いけど、繋がりが弱い⇒行政がその役割を果たす⇒橋渡し役⇒アーティストが動きやすくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもたちが遊びながら学べ、大人と接する機会を多くする⇒施設があったら (だれもが通える学童みたい) ◆何かを行う際、新しい団体を立ち上げるのではなく、今いるアーティストを活用してほしい⇒アーティストへの支援 ◆子どもたちに教えたい、何かしてあげたいアーティストはたくさんいるがその方法がない⇒子どもたちとアーティストを繋ぐ仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ボランティア活動を行う上で、行政 (アリオス) が事務局であることで、会場費がかからない、活動費が支援されるのでありがたい⇒それがあるから活動が続けられる ◆コロナの影響で、都心でしかやっていなかった講演会やWSがZOOMやSNSで見たり聞いたりできるようになったのはよかった⇒地方と都会の環境の違いを出来るだけ埋められれば
Q3. 文化芸術の振興を図るためには、何が大切だと思いますか？	<ul style="list-style-type: none"> ◆文化の活用を大前提としているとあやうい⇒エンターテインメントしか残らなくなるのではないか ◆評価方法の確立 (経済効果や入場者数等の数量的なものばかりではない) ◆専門家を使った広報の仕方 ←行政の支援 	<ul style="list-style-type: none"> ◆アーツカウンシル的な機能があれば ◆個別のアーティストを繋ぐ機関、NPO ◆補助金の申請方法を教えてくれる ◆アーティストの相談役、支援組織 ◆市民の活動を円滑に支える団体 	<ul style="list-style-type: none"> ◆認め合う、許す、許容範囲⇒平均をとらない ◆常日頃からの情報共有 (行政とアーティスト) ⇒情報網の構築⇒お互いの状況の把握、情報提供し合える環境づくり ◆アーティストと行政の間に入り繋ぐ人 ◆どの分野も担い手不足 ◆いわきで活動しながら生活できる環境 	<ul style="list-style-type: none"> ◆子どもに対するアプローチ⇒土台を作る、土台があって芽が出る ◆子どもたちが実際にやるのが大切、その機会を作ること ◆やりたい、活動したい人の背中を押す⇒アドバイス、支援、相談窓口、人を紹介してもらったり ◆一歩を踏み出すこと、それを続けていくことの難しさ⇒そこをサポート ◆地元に住んでても知らないことが多い⇒情報の発信方法 (実はいいところがいっぱいある) ⇒情報収集には個人差がある。情報弱者へのアプローチ⇒知ったうえで、情報の取捨選択がしたい
Q4. 今後、将来にわたってまちの活力や魅力を生み続けていくため、本市における文化芸術が目指すべき姿とは？	<ul style="list-style-type: none"> ◆文化財もいいものがある ◆いわきにはなぜか現代美術分野の人が入ってきている。また地域の作家が結構いる⇒活動支援 (アーティストインレジデンスなど) ※カオスラウンジが市内で、3年連続芸術祭をやった (2015~2017) ⇒その後の効果はある (芸術家が根づいた) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆様々な分野に横串をさす 	<ul style="list-style-type: none"> ◆文化芸術の企画などを行う際、最近はメンバーが固定化している⇒新しい感覚や感性を常に取り入れる必要性⇒新しい人材を発掘・育成していく ◆市内のアーティストで行政と仕事したいと思っている人はたくさんいる。行政と関わることでもモチベーションや意識が上がる人もいる 	<ul style="list-style-type: none"> ◆外の世界も見て、いわきがいいまちだと思ってもらいたい (ずっといわきにいて、つまらないまちだと思って欲しくないという気持ちで、子供を県外に出している) ◆いわきに来る、住む理由は様々だが、いわきにいる間は楽しいと思って欲しくて情報を発信している
【自由意見】	<ul style="list-style-type: none"> ◆ターゲットが狭い気がする ◆子どもに対する教育 	<ul style="list-style-type: none"> ◆ソーシャルエンゲイジメントアートの視点 (いろいろな人を巻き込む) ⇒プロセスが大切 	<ul style="list-style-type: none"> ◆30代を越えると、いわきにUターンしたいと考える人はたくさんいるが、仕事がなく帰郷できない (特に文化芸術分野の仕事がない) 生活基盤を構築できる環境づくり ◆いわきはフラだけじゃないし、新たな視点での捉え方 ◆あるものを活かしていない⇒“おもしろいものに変える”が受け入れられない ◆潮目の活動にも関わったが、テーマとか全体的に難しいと感じた (一般的な人は参加しづらい感じでした) 	<ul style="list-style-type: none"> ◆アリオスかえっこバザールのスタッフとして参加 (子どもと一緒に参加できるイベントを探していた) ⇒当初アリオスは子どもには関係ない場所だと思っていた。 ◆震災後、屋内で子どもたちを遊ばせたくて、こどもプロジェクト・あそび工房をはじめた ◆子育てする親の助けになりたく「キッズアリエ」を発刊